

素晴らしいピアノとチェロのひびき

11月23日(土)14時から遺愛学院講堂で、「庄子やよいピアノ&植草ひろみチェロによるジョイントコンサート」が行われました。庄子やよいさんは旧姓・吉田やよいさんで、遺愛女子高等学校、宮城学院女子大学音楽科を卒業後し、遺愛で3年間音楽教師を勤めた方です。植草ひろみさんは、千葉県出身で11歳からチェロを始め、東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学を卒業し、10年間新日本フィルハーモニー交響楽団に在籍した方です。

2人は今年の3月に東日本震災の被災地・石巻で知り合い、意気投合し、庄子さんの故郷である函館の遺愛学院でのジョイントコンサートが実現しました。

前半は、庄子さんが講堂のスタインウェイピアノで、ショパン「ワルツOP34-3」、メンデルズゾーン「ロンドカプリチオーソ」、カーペンターズの「青春の輝き」などを演奏しました。遺愛勤務時代のおっとりしたイメージ(私の勝手なイメージですが…)とは異なり、繊細さを織り交ぜながらもとてもダイナミックな演奏でした。特にカーペンターズの「青春の輝き」は同時代を生きてきたこともあって、心に染み入るものがあり、思わず目頭が熱くなりました。

後半は植草さんのチェロがメインで、庄子さんが控えめにピアノの音色を添えた演奏となりました。…心から感動しました。築84年木造の遺愛学院講堂(ヴォーリズ設計)は、この日の植草ひろみさんのチェロ演奏のために建築されたのではないかと思うくらいマッチし、チェロの低音が自然に、美しく講堂に響き渡りました。ササキ「白鳥」、パブロ・カザルス「鳥の歌」、アストラ・ピアソラ「オブリビオン」・「リベルタンゴ」そして自作の「セラビィ」「スペインの月」…音楽がよくわからない私にとっては、聴いたことのない自作の曲を初めて聞かされても楽しめないのではと思ったのですが、なんのなんの最高でした。癒しと情熱を奏でるチェリスト植草ひろみさんの真骨頂でした。帰りに植草ひろみ初刊リゾナル曲集CD『ドリーミング』を思わず買ってしまいました。



次に、遺愛講堂で演奏して下さる機会があれば、生徒、卒業生、函館市民に大いに宣伝し、2人の魅力を知っていただきたいと思いました。

2019年11月25日(月)